

令和元年度 連携・協力事業の実施状況について

教職大学院専門部会

【プロジェクト名】 学び続ける学校トップリーダーの資質向上事業

1 プロジェクトの目的・概要

教職大学院専門部会は、佐賀県教育委員会と佐賀大学大学院学校教育学研究科（以下、「佐賀大学教職大学院」）の連携・協働により、「学び続ける教師」の育成を目指すとともに、佐賀県における教職員の生涯学習システムを構築していくことを目的とする。

そこで本事業では、佐賀県における「チーム学校」の実現に向けた推進役となる新たな学校管理職を「学校トップリーダー」と位置づけ、子どもを支えるネットワークの中の「学校」を意識し、多様で複雑な教育課題に対して組織的・効果的な対応を行うことができる「チーム経営」のマネジメント力を高めるため、佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会が組織的に連携・協働して、学び続ける学校トップリーダーの資質能力の向上に取り組む。

特に令和元年度は、佐賀県教員育成指標に基づき、学校における働き方改革の要請に対応する力を育成する研修プログラムを開発した。具体的には、佐賀県教員育成指標で掲げられた10種類の資質のうち、佐賀県の教育課題、学校における働き方改革に対応する、「判断・決断力」、「指導育成力」、「学校組織の理解と運営」、「危機管理・広報」、「職務遂行能力」という5つを取り上げた。

2 令和元年度の実施状況**（1）研修会の概要**

研修プログラムは、セッションIからVの全5回（1セッション4時間）の構成であった。具体的には、佐賀県教員育成指標で掲げられた10種類の資質のうち、「判断・決断力」、「指導育成力」、「学校組織の理解と運営」、「危機管理・広報」、「職務遂行能力」という5つを取り上げた。

（2）対象、人数、期間、会場、日程、講師**対象・人数：**

研修対象者は、佐賀県の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の校長・副校長・教頭とし、定員は各セッション30名程度であった。また受講は5つのセッションの中から自由に選択できる形をとった。

期間：

令和元年7月9日～12月6日

日程・会場・参加人数・講師：

セッションI：7月9日（火）13時15分～16時40分

佐賀県教育センター 第4研修室・28名
 嘉村直樹（佐賀県教育庁教職員課長）
 中島秀明（佐賀大学教職大学院教授）

セッションⅡ：8月7日（水）13時15分～16時40分

佐賀県教育センター第4研修室・20名
 宮崎照行（Training Office 代表）

セッションⅢ：10月8日（火）13時15分～16時40分

佐賀県教育センター 第4研修室・27名
 後野文雄（大津市教育委員会特別支援教育スーパーバイザー）

セッションⅣ：11月12日（火）13時15分～16時40分

佐賀県教育センター 第4研修室・32名
 吉田俊介（吉田総合法律事務所 弁護士）

セッションⅤ：12月6日（金）13時15分～16時40分

グランデはがくれ フラワーホールC・26名
 竹下真由（竹下製菓 代表取締役社長）

（成果）

今年度から受講対象を校長・副校長・教頭とし、受講も5つのセッションのうち1つからでも参加可能とした。その結果、昨年度から受講者数が大きく増え（1セッションあたり平均受講者数：昨年度16.16名、今年度26.6名）、柔軟な研修体制が受講者のニーズに合っていたといえる。各セッションの終了後に受講者にアンケート調査を行った（表1参照）。アンケートは、研修内容に対する理解度や満足度、今後の実践への活用可能性などの8項目について尋ねた。いずれの項目も平均値が4段階中の3点以上を示しており、本研修プログラムを肯定的に評価していたことが示唆された。

表1 各セッションに対する受講者の評価（標準偏差）

		セッションⅠ 判断・決断力	セッションⅡ 指導育成力	セッションⅢ 学校組織の理解 と運営	セッションⅣ 危機管理・広報	セッションⅤ 職務遂行能力
受講者数		28名	20名	27名	32名	26名
1	本日の研修内容を理解することができた。	3.63 (0.48)	3.75 (0.43)	3.77 (0.50)	3.84 (0.57)	3.56 (0.70)
2	これまで知らなかった考え方や実践方法を学ぶことができた。	3.56 (0.57)	3.50 (0.67)	3.92 (0.27)	3.78 (0.65)	3.36 (0.89)
3	本日の内容は学校が直面する諸状況や課題を取り上げたものであった。	3.78 (0.42)	3.55 (0.59)	3.73 (0.52)	3.88 (0.54)	2.80 (0.94)
4	本日の内容は管理職の実践に役立つ内容であった。	3.93 (0.26)	3.65 (0.65)	3.96 (0.19)	3.88 (0.54)	3.42 (0.69)
5	本日の研修を通して、学校経営に主体的に参加する意欲が湧いた。	3.63 (0.48)	3.45 (0.80)	3.81 (0.39)	3.72 (0.62)	3.46 (0.80)
6	本日の研修は自身の力量の向上に有効であった。	3.81 (0.39)	3.55 (0.80)	3.88 (0.32)	3.88 (0.54)	3.44 (0.75)
7	本日の研修に満足している。	3.85 (0.36)	3.55 (0.80)	3.92 (0.27)	3.88 (0.54)	3.62 (0.62)
8	本日のような研修があればまた参加したいと思う。	3.85 (0.36)	3.55 (0.67)	3.96 (0.19)	3.84 (0.57)	3.69 (0.61)

注) 各質問に対して、1：当てはまらない、2：やや当てはまる、3：わりと当てはまる、4：とてもよく当てはまる、という4段階で回答を求めた。

今年度も、佐賀大学教職大学院教授、佐賀県教育庁教職員課長、Training office 代表、竹下製菓代表取締役社長など、佐賀県内の教育資源を活用し研修を行ったことが、研修に対する肯定的な評価につながったのではないかと考えられる。また、特別支援教育やスクールロイヤーなど様々な教育課題を取り上げたことで、受講者の方に多くの視点を提供できたといえる。

本事業を進めるに当たり「開発ワーキングチーム」会議を定期的で開催し、現場にとって必要性のある研修となるよう、また実施がスムーズに行くように綿密な打ち合わせができた。教職大学院と教育委員会の当事者同士がコミュニケーションを多く取り、佐賀県の教育について熱意を持って議論することが大切であると感じた。

(課題)

令和2年度以降も、佐賀大学教職大学院と佐賀県教育委員会において本事業を継続していくことで合意を得ている。働き方改革の必要性が言われる中、研修の内容を吟味し、現場にとって必要性のある研修となるように、佐賀県教育委員会とさらに連携・協働を深めていきたい。また受講者数を30名から増やし、開催会場として教育センター中研修室や佐賀大学教育学部教室を使用するなど研修の形態も検討していきたい。

3 今後の予定等

令和元年度については、すべての事業を終了した。次年度に向けて「開発ワーキングチーム」会議を継続的に開催していく予定。